

みらい 川崎市議会議員団だより

しまだ和明

市議会
ニュース

令和6年夏号

発行

みらい 川崎市議会議員団
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
電話：044-200-3355
FAX：044-245-4135

令和6年市議会第2回定例会は、5月31日から開催され、議案25件（条例12件、事件10件、和解1件、補正予算2件）が提案されました。定例会の開会にあたり福田市長からは、歴史的な節目である市制100周年を迎え、様々な記念事業を通じ、市民一人ひとりが本市の魅力や歴史を再認識するとともに、シビックプライドを醸成する機会を創出していく旨の説明がありました。6月11日にみらい川崎市議会議員団の押本吉司議員（中原区選出）が会派を代表して質問しました。私は、6月20日に一般質問をしました。また、まちづくり委員会の副委員長として委員会審議にも臨みました。意見要望もふまえ様々な議論が進み、6月25日に全ての議案が可決の上で閉会しました。主な代表質問と一般質問の質疑概要などを報告します。



嶋田和明 プロフィール

SHIMADA KAZUAKI

- 1968年9月川崎市で生まれる。
- 1991年3月法政大学経営学部経営学科卒業
- 1991年4月川崎市中学校社会科教諭
- 2000年4月川崎市体操協会事務局長・理事長
- 2018年4月川崎教育文化研究所所長

- 2021年4月（公財）川崎市スポーツ協会理事
- 2022年4月多摩教育文化研究所所長
- 2023年4月市議会議員選挙（多摩区）初当選
- 2023年4月総務委員、大都市税財政制度調整特別委員
- 2024年4月まちづくり委員（副委員長）、市都市計画審議会委員



みらい川崎市議会議員団の主な代表質問

Q

全国都市緑化かわさきフェアについて

緑の保全団体との協働・連携について、今後どのように取り組むのか、本市が描くレガシーの考え方と合わせ、対応を具体的に伺う。

A

企業、地域の団体等を巻き込み、フェア開催後以降も継続できる新たな協働、共創による仕組みの構築につなげていく。団体の方々と取組を紹介する展示やワークショップ等の実施を通じて、情報発信や参加の呼びかけを行い、保全活動等に関わるきっかけづくりに取り組んでいく。

Q

教員不足の対応について

4月に未充足が昨年の倍増の131.5人になり、いよいよ小学校の学級担任に不足が生じ得る深刻な状況になった。また、今年度の募集状況は昨年度と比較しても応募倍率が下がっており、特に小学校については1.7倍となっている。応募者確保のために早急な取組が必須と考えるが、見解と対応を教育長に伺う。

A

教員不足については、児童生徒への影響、教員の負担など学校現場は厳しい状況にあると深刻に受け止めており、私が先頭に立って教員不足の解消に向けた取組を推進していかなければならないと改めて認識している。今後、人材確保の強化、働く環境の改善、業務改善の三つの取組の好循環を生み出す、より実効的な対応策を検討・実施していく。

Q

生田緑地ビジョンについて

ナラ枯れの被害本数は、累計で1914本にのぼるが伐採本数は560本に留まっている。環境への影響や生物多様性を保存する観点から迅速で適切な対応が求められている。当局は、今年度末に示すアクションプランで植生管理計画の見直しについて検討を進めるとのことだが、今後の対応策について具体的に伺う。

A

ナラ枯れについては、昨年度までに緑地内の主要なエリアをつなぐ園路について処理を行い、導線を確保した。令和6年度は、3900万円の予算を一般財源として計上し、約80本の伐採を予定している。市民が通行する園路を優先的に対応していく。

Q

五反田川放水路整備事業等について

令和4年2月に「多摩川水系平瀬川ブロック河川整備計画」の策定に伴う氾濫解析により浸水想定面積が変更されたが、議会がその報告を受けたのは令和6年3月になる。定例会や常任委員会等、説明の機会があったにも関わらず正確な報告がなされなかったことは瑕疵と指摘せざるを得ない。また、長年にわたって「二ヶ領本川」等治水対策協議会」等が組織され準備が進められてきた。念願の放水路が完成し大幅に浸水想定面積が減少したものの、三沢川流域等も含めた新たな整備事業が生じる結果となり、住民に対して丁寧な説明が必要だが、見解と対応を伺う。

A

現地調査や測量を行い、対策案の抽出に時間を要したことから、市議会へは本年の3月の報告となった。当初の計画と整合性を図りながら、事業効果の早期実現に向け取り組んできたところである。住民への説明は、本年5月に「二ヶ領本川」等治水対策協議会」に現状と今後の対応について説明した。今後、令和元年東日本台風で被害を受けた地域住民へも丁寧に説明をしていく。



しまだ和明の一般質問

Q

生田小学校下校庭の整備事業について



生田小学校は、明治六年に創立しその後地域住民の協力のもと敷地の提供等の変遷を経て、昨年に創立150周年を迎えた。現在下校庭は小学校の環境学習の場であるとともに、地域住民が往来する生活用通路としても利用されている。この下校庭のうち、学校の学習で直接利用しない場所について新たな広場として整備を行い、生田出張所に管理が移され、6月1日に整備が完了し開放されている。この広場が「地域コミュニティ拠点」として活用されるにあたり、利用者に下校庭の歴史的な変遷や整備の目的、管理の現状等について広報および習知していくことが必要と考えるが、多摩区長に見解と対応を伺う。

かつて生田小学校の旧校舎があった新たな広場は、近年、環境学習の場などとして活用されてきた。こうした歴史的な変遷や今回の整備の目的等について広く知って頂き、広場への愛着につなげて頂くことは重要なことと考えている。新たな広場で実施する市制100周年記念植樹の取組についても、町内会関係者をはじめとする地域の皆様とともに、広場の歴史的経緯に触れながら進めている。今後予定している植樹式や広場の愛称募集などの地域と連携して行う取組や、利用方法の周知等を目的とした掲示板の活用などを通じた積極的な広報を実施していく。



A



Q

多摩区における污水管・雨水管の誤接続について

3月に五反田川の広い流域で白濁が発生したことから追跡調査を行い、公共下水道の誤接続が確認された。

その後、同時期に開発されたエリア内で一般家屋を含む4件について誤接続が判明した。なぜ接続の完了確認を行わなかったのか理由及びその責任の所在について伺う。



A

この地域は、昭和49年に開発され、昭和61年に下水道処理区域となり、以降、浄化槽が順次廃止されることにより、取付管に誤接続があった家屋等から、五反田川へ汚水が流出したものである。この開発工事により設置された「下水管きょ」の引継ぎに係わる確認等については、昭和49年当時の検査手法や体制を確認できていないが、市側の検査に不備があったものと考えている。

Q

「かわさき電子図書館」について

「かわさき電子図書館」は、いつでもどこでも活用できる利点から、子どもたちの自由研究や講習会及びイベントでの活用、調理のレシピなど様々な活用の広がりが期待できる。本格実施に向けて、現在の利用状況と効果をふまえ拡充していく内容について伺う。



A

5月までの利用状況等は、月平均で約5,400件の貸出などがあり、利用者アンケートでは「いつでも好きな時間に利用できて使いやすい」という意見がある一方、「コンテンツを増やしてほしい」という要望もある。本格実施に向けて、新たな電子書籍の購入や、電子図書館と図書館総合システムとを連携させることにより、電子書籍と一般書籍とを一元的に検索できる機能や予約通知機能等を追加するなど、利便性の向上を図っていく。

Q

不登校対策の充実に向けた指針(案)について

「令和4年度川崎市問題行動等調査」によると、学校外の機関や学校内で専門的な相談・指導を受けていない割合は、小学校で33.4%、中学校で57.1%。全体で47.4%になる。連携強化に向けて、さらなる調査の実施や分析を行うなど具体的な取組が必要と考えるが、見解と対応を伺う。

A

不登校の要因や背景が多様化・複雑化している中で、学校や教育委員会をはじめ、様々な関係機関が適切な支援を行うことは、児童生徒の心の安定や社会的自立に向け、重要であると認識している。今年度から、不登校又は不登校傾向にある児童生徒について、その実態を全数把握する取組を行っており、今後一人ひとりの状況に応じて、福祉や医療等の関係機関や民間団体等との連携を図りながら、支援の充実に努めていく。

Q

部活動の地域移行について

多様な主体による意見交換や懇談会における意見聴取等を進め、「川崎市立中学校のこれからの部活動指針(案)」に反映していく必要があると考えるが、見解と対応を伺う。



A

アンケートの結果からも、生徒の休養や学習時間の確保、教員の更なる負担軽減に向けては「川崎市立学校の部活動に係わる方針」を見直す必要があると考えているが、現在の部活動に対する課題や思いが多様であることから、今年度については生徒、保護者、教員等との対話形式による意見交換を行うとともに、懇談会等において対話を重ねながら、幅広く意見を聴取して検討していく。

市政についてのご意見・ご要望をお気軽にご連絡ください

しまだ和明事務所

〒214-0037 川崎市多摩区西生田2-1-3

TEL/FAX 044-819-5238

shimada9990@yahoo.co.jp



公式アカウント
ご登録ください



HP

f

X